

第 1 回大野東市民センター企画運営委員会（令和 6 年 7 月 9 日開催）

委員意見・助言記入シート　まとめ

テーマ		各委員からの意見
1	「令和 6 年度における市民センター運営について」に対するご意見など	○ 大野の自然（海、山、畑、田など）を知り、共感したり、味わうような企画があるとよい。 ○ 人にとって一番大切で必要な食べ物をつくることを、人の生活の中のどの部分に位置付けるか、こどもたちと共に考えていけたらと思う。 ○ こどもの居場所を「月 2 ～ 3 回、木曜日」と決めているが、夏休みも行ってみてはどうか。 ○ 「親子」、「こども」というキーワードで多くの企画を運営されていることが素晴らしい。 ○ 「自主学習グループの活躍支援」として、グループの作品展示、こどもたちの教育にもつながり、よい取組である。 ○ 地域の皆さんに「市民センター」の活動や利用方法を幅広く知ってもらうことが基本。市民センターだよりは大変読みやすく編集されているので、とてもよい。更に SNS などの利用を検討してはどうか。 ○ 防災（災害）をテーマとした講座の企画は、社協とも連携し、対象区域内だけでなく、大野全体を意識した運営としていただき助かる。 ○ QR コードの周知など、便利である。 ○ クラブアンケートで、市民センターの好感度が上がっていることが伺え、こどもの居場所やメンバーシップにつながっていると思う。 ○ 市民センターだよりが、情報を届けたいところに届きやすい記述になっている。
2	市民センターの機能発揮の観点から市民センターに期待すること	◆ 学校や地域ではできないことを発信していったほしい。 ◆ 中学生がかかわりたいと思える企画運営 ◆ こどもを「学校として参加」させるというのはなかなか難しい現状であるが、「間接的に参加」できることもあるのでは。「つながり」の拠点であることを願いたい。（学校も、市民センターも） ◆ メンバーシップに中学生を入れる。 ◆ 防災機能拠点という観点から、防災関連の講座を開催することは大切。 ◆ 市民センターの対象区域内だけでなく、まるくる大野、大野西市民センターなど、他の市民センターに波及していく活動 ◆ 地域の課題解決拠点として、役割を果たされたい。
3	所属する団体の活動範囲内における、地域の現状や課題	☆ 地域から出にくい人もいれば、若い世代はどこにでも出かけていく。 ☆ 3 区は学校を抱えている利点を最大限に生かせれば。 ☆ 防災はどこに避難するか課題。 ☆ 更地地区はこども会がないので、地区行事の開催が困難になっている。 ☆ 高齢化社会となり、老健介護施設、ケア施設などが増えていると思われるため、地域貢献の一環として、そういった施設での地域貢献を増やしていきたい。 ☆ 能登半島地震から、全国的に関心のある防災、災害の備えなど、一緒に協議しながら市民に伝えていき、地域の見守り活動へつなげたい。 ☆ 認知症は早期に発見し、対応することで、2 0 4 0 年には認知症の見込みが 1 ／ 5 減少するのでは。自分で気付いても認知症診断につながらない。この意識を変え、早期発見の大切さを伝える必要がある。